

KINGCA WEEK 2023 Master Class 研修後記

静岡県立静岡がんセンター 胃外科

曾根田 亘

この度は 2023 年 9 月 11 日から 9 月 16 日にかけて、胃癌学会から参加助成をいただきソウルで開催されました KINGA WEEK 2023 に参加をさせていただきました。Master Class としての参加になりますので前半 3 日間は Catholic University, Seoul St. Mary's Hospital での病院見学に始まり、後半 3 日間を oral presentation を含めた Korean International Gastric Cancer WEEK への参加といったスケジュールとなっております。

Seoul St. Mary's Hospital はソウル市南部に位置する病床数 1300 を超える大病院です。1 年間での胃癌手術は 400 件を超えるということですが、これでも韓国内では 10 指に入るかどうかということで、韓国における胃癌診療の集約化を感じ取ることができます。見学に訪れた 3 日間の間でロボット手術 2 件、腹腔鏡手術 3 件、緊急手術 1 件と計 6 件の手術を見学させていただきました。ロボット手術は Hybrid method というロボット支援下での切除と腹腔鏡下での再建を組み合わせた手術法に加え、DaVinci SP による SMT に対する単孔式手術など日本では見ることのない特徴的な手術を見学することができました。腹腔鏡下手術では高いレベルの低侵襲手術を短時間でこなしており、assistant nurse が手術に参

加することで外科医の負担を軽減させるなど、日本での外科医の働き方改革にも通じる一面を見ることができました。

今回の私の見学時には同じく Master Class に参加したマレーシア、中国からの外科医がおり、加えてサウジアラビアからの留学生も交えて術中や術後に彼らと活発にディスカッションを行うことができ、大変勉強になりました。カンファレンスや抄読会も全て英語で行われ、Seoul St. Mary Hospital の国際研修力の高さを実感いたしました。Prof. Songをはじめ主に対応をしてくださった Prof. Seok、静岡がんセンターに exchange program で訪れていた Prof. Lee など現地のスタッフからも温かい対応をしていただき、大変快適に見学を行うことができました。今回私にとっては初めての海外研修、学会発表の機会ではありましたが、現在所属する静岡がんセンターでは海外からの留学生を広く受け入れているため、そこでの経験もあってか英語の壁を感じながらも積極的なコミュニケーションやディスカッションに参加することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

後半の KINGCA WEEK では静岡がんセンターにおける上部胃癌に対する最適な機能温存手術に関する検討を発表いたしました。慣れない英語の発表ではありましたが、同じような若い世代の海外の医師たちに負けないよう堂々と発表することができました。今後もこの経験を励みに積極的に海外学会発表に挑戦していきたいと思っております。

この度はこのような素晴らしい研修の機会を与えて頂いた日本胃癌学会理事長の掛地吉弘先生、監事の小寺泰弘先生、国際委員会委員長の竹内裕也先生、また Master Class

への参加を勧めて頂いた寺島雅典先生に心より御礼申し上げます。韓国渡航における VISA 取得が緩和され、今後はさらに渡航が容易になってくるかと思えます。今後も KINGA WEEK Master Class への参加助成が継続され、今回私が得られたような素晴らしい経験をより多くの若手学会員にも経験してもらえることを心から切望しております。



写真1：KINGCA 2023 学会場にて 同じく St. Mary Hospital に Master Class で参加したマレーシアの Dr. Tang(中)と中国の Dr. Tian(右)と

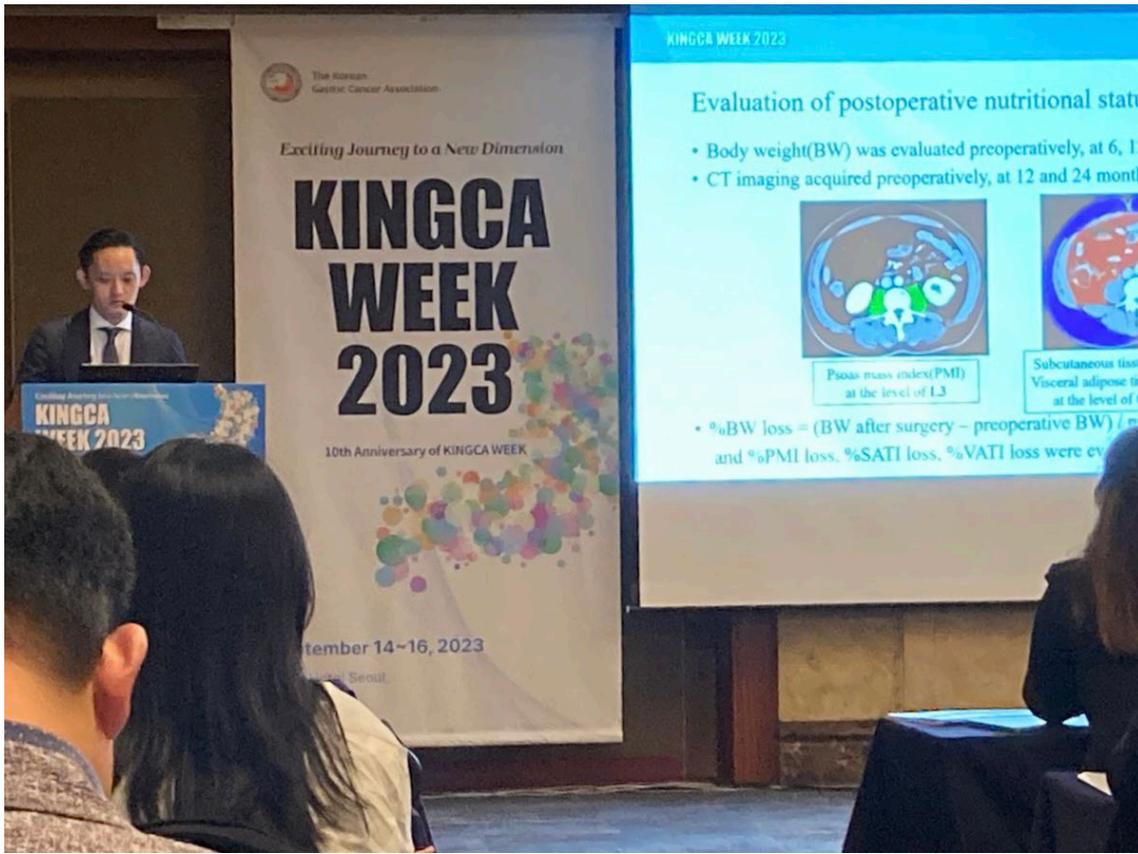


写真2：Oral presentation での発表